

編集後記

講和成立の日も間近いと思われ、被占領國としての最後の年もやがて暮れんとしている。占領下とは云い乍ら、本年の後半は多分に自立的色彩の濃いものであつた。我が國の病院問題もやつと自主的に歩み出した感が深い、徒らにあせることなく一歩々々確かな地歩を礎いて行く心構えが必要であろう。ローマは1日にして成らず、の譬えもある。更に3年の猶豫をうけられた48時間制限の問題にしても、要は斯かる法律的制約を不要とする様に、病院を普及せしめることであり民衆に眞の病院の在り方を充分認識せしめることに他ならない。

本年の收穫の第一は、何と云つても全國病院協會の結集成つた日本病院協會の發足であり、次いで第1回病院學會の開催であつた。學會とは云つても眞に學會の體裁を整える爲には、尙

若干の年月を必要とするであろうが、この様な集まりが關係者の間に持たれるということ自體、非常に意義深いことと思われるので今後の發展に期待する次第である。何れ講和成立の曉には、國際病院連合との結び付が豫想される。これは來るべき新年に對する一つの期待としておいてよいであろう。

それにつけても、我が國に於ける病院經營に關した基本的なデータがもつと欲しい。これを來年の課題として、各病院で資料の蒐集を考えて頂けたら、將來えの大きな飛躍の土臺になると思う

既に診療費の原價計算は本年に於て發足し、逐次成果を上げて行くことが期待されているが、病院が包藏する幾多の未開拓の分野があるように思われる。病院に於ける夫々の業務内容の分析の問題も病院經營には不可欠の問題であり乍ら、從來は抽象的に論じられるに過ぎなかつた。田中氏はその道の大家丈あつて、病院には素人であられると思うが、指摘される所に肯綮を射ているのはさすが

と思う。斯様に今後各方面の専門家により病院が解剖され、批判されて初めて一本立となり民衆のものとなつて行くのであらう。

目下一部有志の間に於て、病院經理の根本を確立するために病院財務諸表について検討が重ねられているので、次號よりこれに關する記事を掲載の豫定である。

最後に、我が國の病院に於ける最も大きな問題の一つ、病院醫師の在り方についての一つの提案が守屋氏に依てなされている。これは日本の病院に大きな革命をもたらすものであり、病院問題の心臓を突いた觀がある。大方の御批判を期待する所以である。

先頃、社會保障制度に關する報告で、醫療問題が大きく採り上げられた。國民醫療が愈々深刻化する今日、吾々病院人に對する一般民衆の期待は甚だ大きい。新年に於ける多幸を祈ると共に、諸賢の御協力を期待します。(編者)

—表紙説明—

Silent night, holy night...
 クリスマスの夜は、
 非教徒にも、
 聖なる光が
 照り輝く。
 病室の窓に、
 星の光が
 見える。
 夜明けの
 静けさの中、
 天使の
 歌を聞く。
 手自由な
 歌を聞く。
 病児たち
 聞いて
 いる。
 プレゼン
 であ